

350

1964

新人観迎会

(丹沢)



(図は水無川のF3)

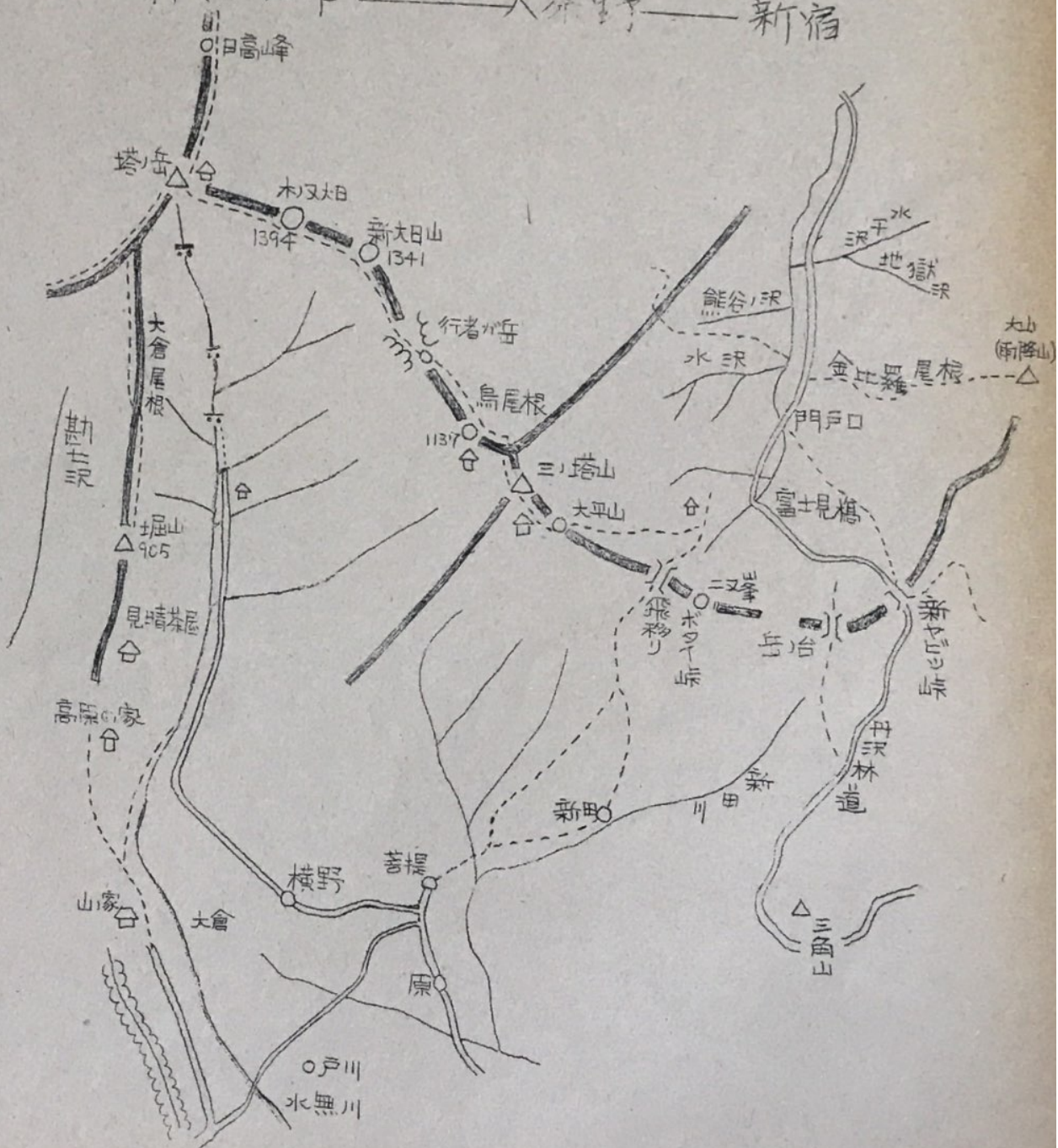
参加者氏名

学年	氏名	住所	電話
3	藤田 昊二	市川市八幡町 3-763	(船) 3036
3	加藤 正二	豊島区雑司が谷町 6-113	(982) 6404
C.L 2-8	阿部 武	横浜市神奈川区大通 1-22	(42) 1419
S.L 2-3	丸山 正次	台東区中根岸町 91	(873) 3637
2-2	大成 哲	大宮市三橋 1-1519	(大宮) ⁽⁴²⁾ 1372
2-3	佐野 俊一	世田区北沢 5-828	(321) 5487
2-6	水谷 和夫	渋谷区恵比寿西 2-3	(461) 0410
2-7	大島 美孝	新宿区花園町 88	
2-8	菅野 則一	大宮市高鼻町 2-280	大宮(41) 6853
2-9	山中和夫	渋谷区西原 1-10	(371) 2460
2-9	小早川 寛一	江東区豊洲町 2-31	(681) 1480
2-3	坂井 格	世田谷区給田町 83Z	
2-6	山崎 伸介	新宿区小川町 2-20	
2-7	内田 康之	埼玉県川口市幸町 1-9	
2-2	小椋 良信	台東区浅草雷門 2-21	(841) 2842
2-1	河崎	文京区関口台町 28	(941) 6970
2-4	高島 邦夫	足立区千住 4-13	
1-3	大谷 清	台東区浅草雷門 2-21	(841) 2842
1-4	平川 良輝	世田谷区松原町 4-84	
1-8	松前 芳三郎	文京区小日向町 45	
	藤林		
	中沢 耕		
先生	高梨 富士三郎	世田谷区池尻町 38 都営 1001010	
	飯島 美信	文京区湯島 1107	
28	長田 恵司	豊島区椎名野 502169	(951) 2339

新人歓迎小行 丹沢表尾根

コース

新宿 4:05 小田急
 渋沢 $\frac{20分}{バス}$ 大倉 1時間 一本松跡 $\frac{2時間}{}$ 塔の岳
 $\frac{40分}{}$ 新大日の頭 $\frac{50分}{}$ 行者が岳 $\frac{25分}{}$ 烏尾根 $\frac{20分}{}$ 三ツ塔
~~時間30分~~ 新ヤビツ峠 $\frac{50分}{}$ 大森野 新宿



個人装備

- | | | | |
|---------------|-----|-------|-------|
| 長ズボン | 1 | 予備靴に毛 | 1 |
| オープンシャツ(黒) | 1 | 趣好品 | E.T.C |
| 手拭 | 1 | | |
| 軍手 | 1 | | |
| 厚靴下 | 1 | | |
| うすもの | 1 | | |
| ヤッケ | 1 | | |
| 雨具 | 1 | | |
| 時計 | 1 | | |
| 地図(秦野) | | | |
| マッチ | 1 | | |
| 新聞紙 | 5枚 | | |
| 非常食 | 1食分 | | |
| ハリ糸 | | | |
| 細引 | 10m | | |
| 身分証明書 | | | |
| 昌子 | 1 | | |
| バンド | 1 | | |
| 筆記用具 | | | |
| シラフ(寝袋) or 毛布 | 1 | | |
| 水滴 | 1 | | |
| 懐中電燈 | 1 | | |
| タオル | 1 | | |
| 手ぬぐい | 1 | | |
| 小物入 | | | |
| ビニール | | | |

団体装備表

夏用テント一式	3	シヤエジ	3本
冬用テント一式	1	包丁	3本
ハッグ	50本	お玉	3本
木杓ち	5本	食器	18個
シヤベル	2本	タワシ	4個
ナタ	1丁	クレンザー	2つ
ホーキ	2本	ポリタンク	3個
エアーマット	7枚		
石油コンロ	6個		
ヤカン	2つ		
ナベ (大)	3つ		
(中)	2つ		

食料計画

4日 (夜)	餃・コンビーフと野菜ソーテ・五目ずし・つけもの
5日 (朝)	餃・かんづめ・みそ汁・ふりかけ・つけもの
(昼)	パン・バター・ソーセージ・チーズ・夏みかん

※ 米2合持参

夏みかん 2人で1つ

かんづめ 2人で1缶

食料当番は 4:30 (起床)

他の者は 5:00

出発は 7:00 (出す)

3日 日曜日 個人の装備を持って学校へ来ること。
食料の買い出し。

月曜日 野菜、油あげを買い、昼休みにハロッキングをすませ
山の服装に作る。
3時15分必ず出発

校則厳守

破るようなことがあれば退部とする。

車内をよごすな。

大きい荷物で電車の中で場所をとるな。

必ずガッツリは並べておけ。

[メモ]

みんなでおおう

校歌 1.

緑は深し城西の麓をよそなる目白台
学べの 花の香も高く 我 校 樹 々 鬱 々 として

いつかある日

いつかある日 山で死んだら
旧い山の友よ 伝えてくれ
母親には 安らかだったと
男らしく死んだと 父親には

伝えてくれ いとしい事に
俺が帰らなくても 生きて行けと

息子達には 俺の足跡が
故郷の岩山に 残っていると

友よ 山に俺のケルンを積んで
墓にしてくれ ビックル立てて

新兵エレジ-

いいぞいいぞとおだてられ 死にものぐるいで来てくれは
朝から晩まで飯たまで 景色なんぞは俺のウチ

二年部員は小生養気 ハツ列さか乳 おどかし 新兵はんぞはあじの先
米はギヤングか強盗か

チーフリーダー タメクサイ サブのリーダーはがちゃくさい
あとの二年はエロくさい メツチエン 通れば頭右

パイプくわえた赤鬼や ビックル片手の青鬼や
地獄の二丁目 ワンゲル部 せんで入る 馬鹿もいる

一羽鳥でもあるまいに 朝も早から起こされて
米とぐ水の冷たさに 国の母さん悲しいな

しせんあの子は おせ裏さん 俺はしがな山がらす
月をながめて あきらめる 笑ってくれるや お月さま

ピクニック

丘を越えて行こうよ 日笛吹きつつ 空は澄み青空
 牧場をさして 歌おう 朝らに とともに手をとり
 ラララ ララ ララララ ララララ アキルさん(グググ グ)
 ララララララ 山羊さんも (X-)
 ララ歌ごえ合わせよ 足並そろえよ 今日は愉快だ

雪山讃歌

雪よ 岩よ 我らが宿り 俺たちや 町には 住めぬ からに
 ミールは ずして パイアの 煙 かがやく 屋根には 春風をよぐ
 けお 小庵でも 黄金の 御殿 早く行こう 谷間の 小屋へ
 テントの中でも 月使はてきよ 雨が降つ ぬれば ぬれさ
 吹雪の日には 本当に 辛い ヒョケル 握る 手成 凍えるよ
 荒れて 狂うは 吹雪の なだれ 俺たちや そんなもの 恐れはせぬぞ
 雪の 間に 間に きらきら 光る 明日は のぼるよ あの 頂きに
 朝日に 輝く 新雪ふんで 今日も行こうよ あの 山こえて
 山よ さよなら じきげん よろしゅう またくる 時にも 笑っておくれ

黒い瞳

黒い瞳の 若者が 私の心を とりこにした。
 もろてを 差しのべ 若者を 私は やさしく 胸に いたく
 愛の ささやきを 告げながら やさしい 言葉を 私は 待つ
 緑の 牧場で 踊ろうよ 私の 愛する 黒い瞳。
 私の 利女めごと 父さまに 告げに する人 誰と いたない

校歌 2

ああ 九百の 健男子 仰げ 双手の花ニ枝
 ああ 九百の 健男子 仰げ 理想の花ニ枝

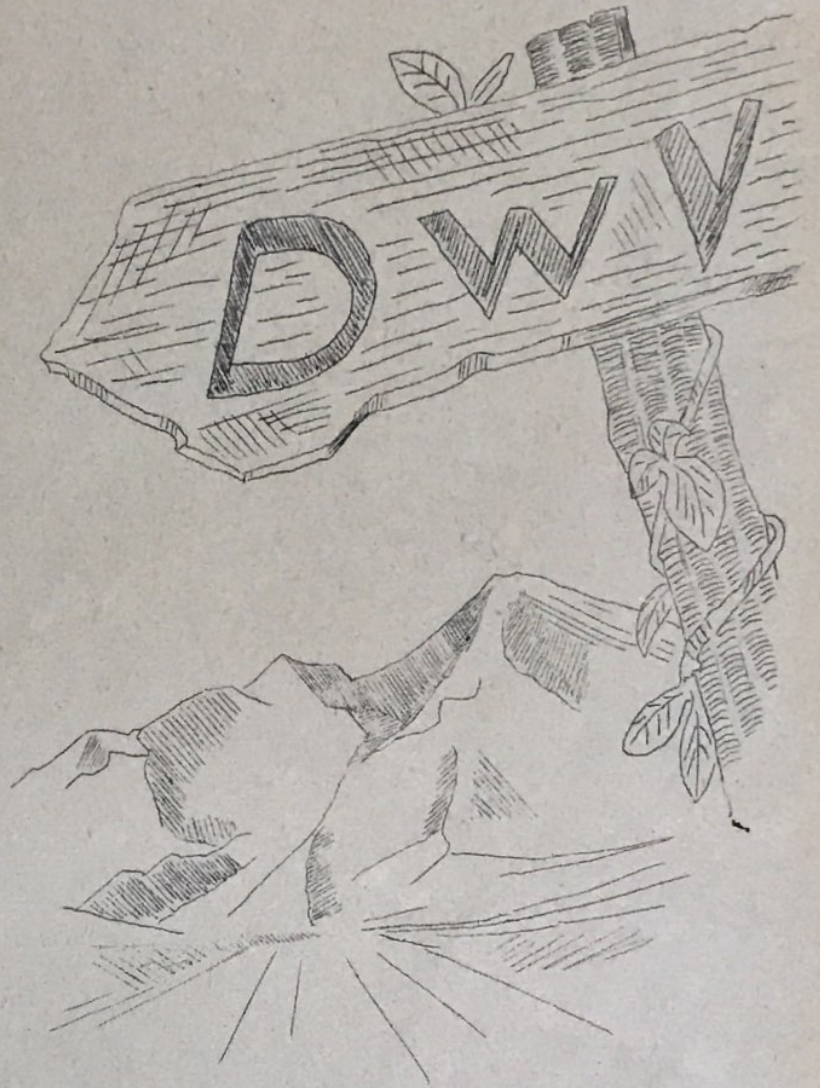
登山についての心得十則

1. 登山は、細心にして大胆なれ。
2. 力は丹田に、呼吸は鼻で。
3. 急がず、休まず、山上を仰ぐな。
4. 一歩一歩に注意が肝要。
5. 手足の爪は短かく、脚絆はしっかりと。
6. 睡眠は充分に、腹は七分目に。
7. 水は疲労の原因
8. 道は乱さず、互いに助け合い。
9. 草木を愛護し、指導標を大切に。
10. 火の用心、山小屋は我等のオアシス。

以上のことをよく守ってくれ！

目標

広い社会の様子や自然に触れて、
経験をひろげよう。



独協ワンダーフォーゲル
(非売品)